

社会科学習指導案

日 時 令和8年2月5日(木)
第5校時 13:30~14:20
学校名 杉並区立泉南中学校
対 象 第2学年B組 34名
会 場 1階第2学年B組教室
授業者 教諭 高橋 洋海

1 単元名 武士による全国支配の完成(帝国書院「中学生の歴史」)

2 単元の目標

- (1) 江戸幕府の成立と大名統制、身分社会と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解させる。
- (2) 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発展と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現させる。
- (3) 近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。

3 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
江戸幕府の成立と大名統制、身分社会と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。	交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発展と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	近世の日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

4 単元設定の理由

近世の日本は織田・豊臣による統一事業、江戸幕府の成立と大名統制によって、安定した社会が長く続いた。それに伴い産業や交通が発展し、都市を中心とする町人文化や各地方の生活様式が形成された時代である。この時代に蝦夷地へ進出したため、アイヌの人々の自由な交易活動は次第に制限され、アイヌの人々の従来の生活の場が侵されるようになった。また、明治期以降はその流れがさらに進み、狩猟は禁止され、土地を奪われていった。教育の場においてはアイヌ語の使用が禁止され、日本語が強制されるなどの同化政策が行われた。

本単元では、幕藩体制の成立とその諸政策などから近世社会の変化について理解させたい。「四ヶ所に絞られた貿易の窓口(長崎、対馬、薩摩、松前)」の一つとして、交易の観点からアイヌの人々の歴史・文化を学習するとともに、その交流の変化の様子を「アイヌの人々への支配」で理解を深めていく。また、この近世の歴史的背景を、近代の同化政策や現代の人権課題の学習へとつなげていくことをねらいとして本単元を設定した。

5 生徒の実態

本学級の生徒は、発言を積極的にするなど、意欲的に授業に取り組む生徒が多くみられる。一方で思いついたことを十分に吟味せずに発言してしまう場面があり、その中には、歴史的背景への理解が不十分なために不適切と受け取られかねない発言も見られる。今後も発言に関しては留意しながら、指導を行っていく。

これまでに生徒は、中世の学習においてアイヌの人々が独自の文化を築いてきたことを理解しているが、アイヌの人々との交流の歴史については理解が十分でない。歴史的な背景を理解することによって、先住民族の独自の文化を尊重することの重要性を自覚させる。

6 単元の指導計画（全5時間扱い）

	目標	学習活動	人権教育に関わる留意点等
第1時	江戸幕府が開かれた経緯と幕藩体制の仕組みを理解し、江戸幕府が長く続いた理由を考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・大名の配置、武家諸法度の制定、参勤交代の制度のそれぞれのねらいを理解する。 ・幕藩体制について、将軍と大名の関係に着目させ、全国の土地と人々の支配を幕府と藩でどのように行ったか考察し、表現する。 	<p>幕府が大名を統制するとともに、大名が幕領以外の土地と人々を支配する体制であったことに気付かせる。</p> <p>小集団での検討や全体での意見交換を通して事象を論理的に考察する力を育成する。</p>
第2時	幕府の政策が、貿易の推進から統制に変化した理由を、キリスト教との関わりから考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・キリスト教と貿易への対応について、信長・秀吉・家康の違いをまとめ、貿易の統制と禁教に移行していったことを理解する。 ・大きな利益が得られる朱印船貿易が停止された理由を、キリスト教の禁止の徹底の面から考察し、表現する。 	<p>キリシタンの増加が次第に幕府の支配への脅威になってきたことから、貿易の統制を強化したことに気付かせる。</p> <p>小集団での検討や全体での意見交換を通して事象を論理的に考察する力を育成する。</p>
第3時	幕府が長崎、対馬、薩摩、松前の四ヶ所の窓口を通して外との交易を行っていたことを理解し、その理由について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・貿易の四ヶ所の窓口が、それぞれの地域への窓口となり、貿易を行っていたかを理解する。 ・日本と貿易するヨーロッパの国がオランダだけとなった理由を、キリスト教との関係から考察し、表現する。 	<p>貿易の利益や情報の独占を幕府が行っていたことを気付かせる。</p> <p>小集団での検討や全体での意見交換を通して事象を論理的に考察する力を育成する。</p>

第4時	琉球王国は薩摩藩の支配を受けながら、一方で中国に朝貢し貿易を行っていたことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球藩と薩摩藩の交易の特徴を理解する。 ・琉球王国の人々の生活が江戸時代になってどのように変化したのか、薩摩藩との関係に触れながら考察する。 	<p>両者の関係性や交流による利点に気付かせる。</p> <p>小集団での検討や全体での意見交換を通して事象を論理的に考察する力を育成する。</p>
第5時 (本時)	アイヌの人々の文化と置かれていた状況を理解し、松前藩との関係について考察する。	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々の文化について理解する。 ・資料からアイヌの人々と武士や商人との関係について考察する。 	<p>当時の幕府や松前藩とアイヌの人々との関係や、和人の商人による不平等な取引の実態を理解させる。また、アイヌの人々が、言語や宗教など独自性のある文化を形成してきたことを理解させる。</p> <p>小集団での検討や全体での意見交換を通して事象を論理的に考察する力を育成する。</p>

7 人権教育の視点

近世社会の成立と産業の発展の中で、蝦夷地との交流・交易をしてきたことを知る活動を通して、江戸幕府や松前藩とアイヌの人々の関係性が対等ではなく、アイヌの人々にとって不利な状況に置かれてきたことをふまえ、先住民族の尊厳を守ることの大切さを理解させる。

8 本時の展開（全5時間中の第5時間目）

(1) 本時の目標

資料などから、アイヌの人々と松前藩、商人等との関係やその当時のアイヌの人々の生活の様子を理解するとともに、先住民族の尊厳を守ろうとする態度を養う。

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される生徒の反応例	・人権教育に関わる留意点等
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに学習したアイヌの人々に関する ことを振り返り、生活や文化を理解する。 ○知っていることをグループ（4人組）で話し合う。→全体で共有 <ul style="list-style-type: none"> ・蝦夷地（北海道）に住んでいる。 ・狩猟や採集を中心に生活している。 ○本時の学習課題（ねらい）を確認する。 「アイヌの人々と和人はどのような関係であったか」 ○学習課題について予想し、発表する。 <ul style="list-style-type: none"> ・お互いに敵対していた。 ・友好関係が結ばれ、交易などが行われていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌ文化の独自性に気付かせる。 ・小規模のグループによって、発言しやすい環境をつくる。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○資料からアイヌの人々と和人ととの交易の米とサケなどの交換比率の変化を理解する。 ○資料からアイヌの人々と武士はどのような関係であったか考察する。 ○グループ（4人組）で話し合い、どのような関係か、なぜそう思ったのか考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々と武士は、対等な関係ではない。 ・アイヌの人々は、武士に支配されていた。 ○資料からアイヌの人々が強制的に働かされていたことを理解する。 ○松浦武四郎について確認する。 ○資料の記述からアイヌの人々と和人の関係性について、グループ（4人組）で話し合ってみる。 ・アイヌの人々は武士にも商人にも支配され、不平等な関係であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料から松前藩とアイヌの人々との関係が次第に変化していったことに気付かせる。 ・「オムシャの儀礼」を利用して、アイヌの人々への支配を強めたことを理解させる。 ・「サル」、「アツケシ」などは地名であることを確認する。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習について個人で振り返り、まとめる。 ・アイヌの人々は強制的な労働や、不平等な交易に対して、幕府の役人や商人に不満をもっており、その結果対立が生じていたことが分かった。このことから、特定の民族への不当な扱いは人権侵害であり、異なる文化をもつ民族も尊重することが大切であると感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイヌの人々と和人ととの関係が不平等であったことをふまえ、先住民族の尊厳を守ることの大切さを理解させる。 ア 知識・技能（ワークシート分析） ・アイヌ文化に加えて、他の文化のよさについても触れるようにする。